

楊 夢 (ヨウ ユメ)

中国出身

日本女子大学 人間生活学研究科 博士課程

心理学視点から見る『Snoopy』

日本に来てから、有名スポットを観光するとき、生活用品や夏の T シャツを買うとき、よくある小さい犬の姿を見えます。それはスヌーピーです。調べたら、観光スポットや商品とのコラボレーションだけではなく、スヌーピーカフェやグッズ専門店、さらにミュージアムまでもあることに驚き、このワンちゃんは日本人によく愛されることをわかりました。あまり子どもアニメの見ない私は、なぜこの作品はこんな広い影響力があるかに興味を生じ、暇のあるときに見はじめました。最初、あまり考えずに見ていたが、何話を見ると、この作品は物凄く心理学の知識を含めることを気づきました。

ライナス——安心毛布

まずは一番典型的に、「安心毛布」という概念を世間に知られる人物、ライナスです。いつも青い毛布をもって安堵な表情を示し、だれかにその毛布を取ってしまったら大パニックになり、強い執着を示しています。心理学の視点で見ると、ぬいぐるみや毛布など、ふわふわのものに愛着を示すのは子供の生まれつきの特性ですが、ライナスのように、なかなか手離せない子は、やはり心の不安が強く、いつも他人に見捨てられるのではないかと心配しているという精神の衰弱さがあります。この症状は、動画の中でライナスの両親がずっと不在であることに関連しているのだらうと思います。

ルーシーとシュローダー——夫婦関係の原型

ルーシーのシュローダーの関係は、作者と最初の妻の関係の反映であるという説があります。シュローダーは小さな音楽家であり、いつも演奏に集中し、ルーシーの感情を全く無視する態度をとっているが、ルーシーはそれに対して尻込みがなく、いつも進撃な姿勢で自分の愛を表しています。しかしシュローダーの愛好に理解できず、彼のおもちゃピアノを壊したり捨てたり、自分だけに注目してほしいという強い独占欲を示しています。この関係性は、非常にその時代の結婚やの夫婦の関係性を反映しているのではないかを感じます。「逃げる」、感情を回避する夫と、「追い詰める」、感情を過剰に求める妻は、なぜいつもペアでみられるのかは、現在でも非常に面白い研究価値のある課題だと思います。

チャーリー・ブラウン——小さな大人

主人公のチャーリー・ブラウンは、私で見ると、子どもを超えた、ある平凡し過ぎる大人を表現している存在です。不器用なところが多く、あまり特技がなく、さらに、運もよくない子です。考え方も、いつも優柔不断で、弱気的で、憂鬱なところがあります。しかし思いやりや慎重のところは人一倍で、人間味をいっぱいもっています。この特徴は、まるで我々大人のように、行動する前にいろいろ可能性や結果を考えなければならない、結局なかなか決断ができなくなり、時には憂鬱や暗闇な思考に陥ることもあるが、明るいところや他人への思いやりももちろんあり、非常に「一般大衆」の特

徴を表す素晴らしい存在のではないかと感じています。

このような小さな分析は、あくまでも私の限られている心理知識によるものであるが、この作品がみんなに愛される理由を少しわかりました。子どもだけではなく、私のような大人でも、このアニメの中から、よく自分の影(投射)を発見し、それと向き合うのは貴重なところでしょう。

安心毛布をもっているライナスそれだけではなく、「聴く」をきっかけにして、本格的「読む」も始めました。聞いている外国の小説のほとんどは訳本なので、これらの小説はもともとどんな書き様だろうかと、好奇心が湧いて、ついつい文庫本を買って読み始めました。縦書きで、知らない単語もあるので難しいところもありましたが、じっくり読むと、書く背景や作者の風格も少し感じられるようになって、読んでいるときに、探偵と一緒に謎から真実を見つけ、文字の中からその面白さを満喫しました。

以上